

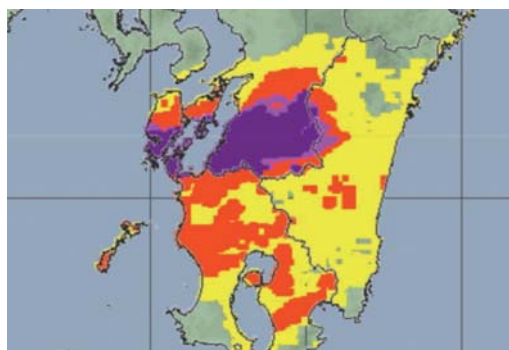
雨を調べる

早めの防災対策・避難行動を行うために防災気象情報を積極的に活用しましょう

情報収集を積極的に

市町村は気象庁の防災気象情報等を避難情報発令の判断に用います。スマートフォン等でもアクセスできますので、気象庁の防災気象情報を積極的に入手し、早めの防災対策・避難行動に役立てるようにしましょう。

気象庁ホームページから防災気象情報をクリックし、さらにあなたの街の防災情報をクリックすると、気象警報・注意報、大雨危険度、キキクル（危険度分布）などいろいろな防災情報を見ることができます。



例えば、**キキクル（危険度分布）**をクリックし、土砂災害を選択すると左図のような色分けされた地図が表示されます。

この例では、肝付町の一部が**黄色（警戒レベル2相当）**になっています。このレベルでは避難する必要はありませんが、今後の雨雲の進み次第では**赤（警戒レベル3相当）**や**紫（警戒レベル4相当）**のレベルになるかもしれません。今後の防災気象情報に注意する必要があります。

そのほか様々な防災気象情報を見ることができますので、ぜひ活用してください。

パソコンやスマートフォン等をお持ちでない方は、**テレビのdボタン**でも各放送局の気象情報・災害情報・河川水位情報など各種の防災情報を見ることができます。自分の命を守る重要な情報です。積極的に活用してください。

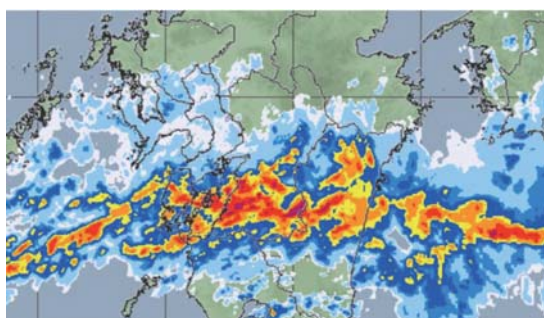


「線状降水帯」にご注意！

「線状降水帯」とは、次々と発生発達する雨雲が列をなして組織化した積乱雲群となり、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過又は停滞することで作り出される線状に伸びる雨域で、長さ50～300 km程度、幅20～50 km程度の下図のような雨雲の動きをいいます。

気象庁は6月1日から、「線状降水帯」による大雨の半日程度前からの呼びかけをスタートしました。

気象庁が発表する呼びかけは、下図のような具体的な画面予想ではなく、次のような内容の気象情報として発表される予定です。



大雨に関する〇〇地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇時〇分 〇〇気象台発表
〇〇地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

「線状降水帯」の影響があるかないかは、ほかの防災気象情報にも目を配り、総合的に判断する必要があります。

早めの防災対策・避難行動を行うために防災気象情報を積極的に活用しましょう。